

城下町散策マップ

城山（佐伯城・鶴屋城）



○初代毛利高政
慶長六年（一六〇一）日田より佐伯へ移された高政は、番匠川の河口・塩屋村の八幡山に新城を築き、塩屋の浜を埋立て城下町を建設しました。

○三代高直
寛永一四年（一六三七）三の丸御殿を創建して藩政の場を山頂から三の丸へ移し、櫓門を設けました。

○六代高慶
宝永四年（一七〇七）の津波被害を受けて、中村外に大土手を、城下の外周に長堤を築きました。

○宝永六年（一七〇九）より鶴屋城の修築にかり天守を除いて創建当時の姿を再現、大手門・搦手門を整備しました。

○元文元年（一七三六）の大火を受けて町割を再編し土民の居住区を設定。

○七代高直
家中及び町家に瓦屋根を奨励しました。

○八代高標
安永八年（一七七九）藩校「四教室」を創立、天明元年（一七八一）城中に「佐伯文庫（蔵書八万巻）」をつくる。

このころ飢饉が続き、御典医・今泉元甫は藩に米一五〇石を献上し、城山の麓に三つの井戸を掘って窮民を救った。

○十二代高謙
文久三年（一八六三）三の丸下に南御殿（天祐館）を造営、明治四年（一八七二）七月薩藩置県によって佐伯県が発足したが同年十一月には大分県に統合された。

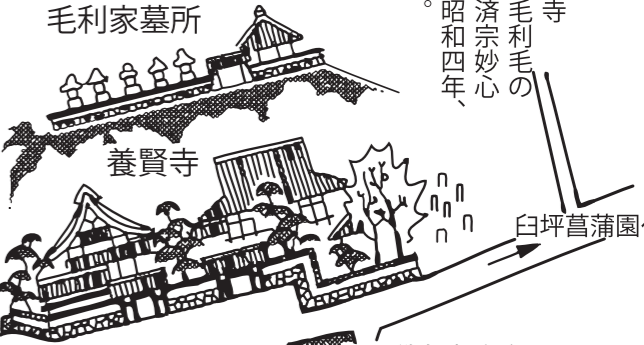
毛利二万石の城下町



○明治のマルチ人間・矢野龍溪
藩校「四教室」で学んだ龍溪（文雄）は、明治6年に福沢諭吉の慶応義塾を卒業しました。
教職：慶応義塾教師・錦城中学校長
小説家：「経国美談」「浮城物語」
政党内閣：立憲改進黨・太政官書記
宮内省式部官・駐清特命全權大使
新聞人：郵便報知新聞社長・大阪毎日新聞副社長

○明治の文豪・国木田独歩
「佐伯の春まづ城山に来たり…」
明治26年、英語の教師としてやって来た独歩は、城山の下坂本家に下宿して、わずか一年たらずのあいだに、城山をはじめ佐伯の山野を歩きまわり、後に佐伯を舞台にした「春の鳥」「鹿狩」「源おぢ」などの作品を残しました。

○藩主の菩提寺・養賢寺
毛利高政が慶長十年に毛利毛の菩提寺として創建、臨済宗妙心寺派。現存する本堂は昭和四年、庫裡は弘化二年の建築。
背後の墓所には毛利家歴代の立派な五輪塔が並んでいます。
六代高慶は藩祖高政の霊廟を築き高政の功績をたたえる霊廟記を掲げました。
霊廟の前には高政の愛した母・法雲院の墓石が据えられています。



馬場の松と桜小路
正徳三年（一七一三）養賢寺前に調馬場をつくり「桜の馬場」といった。
享保四年（一七一九）長堤を築き養賢寺前より囚獄所まで松を列植した。

鶴城高校
明治14年、南海中学校が山際に開校、同19年の中学校令改正により廃校。
明治44年南海郡立佐伯中学校が現在地に開校。
昭和23年、佐伯第一高等学校発足。同26年佐伯鶴城高等学校と改称。

中村
元文元年（一七三六）内町大火で農家を中村に移転、宝永四年（一七〇七）の宝永の大地震による大津波で中村外に土手（馬場の松）を築堤。

高政の母妙西尼の菩提寺
寛永十九年（一六四二）幕府の罪人・信州松本の城主石川康長の埋葬地に古市にあった善教寺が移築された。

お倉の井戸
御典医・今泉元甫が掘った三義井の一つ「安井」
藩の御米倉の跡は南海中学校から法務局として現在は市民の茶室「汲心亭」になっています。

山際通りの対面は、前田と呼ばれ防備のため沼田になっていました。住宅が建ち始めたのは昭和になってからです。



○南御殿（天祐館）
文久三年（一八六三）に竣工、明治三年（一八七〇）天祐館と改称、明治六年（一八七三）一部を三府役所跡に移して毛利毛の私邸となる。

○三府役所（三府御門）
藩政時代の役所跡。明治以降毛利毛の所有となり、後に警備館と呼ばれた。

佐伯市歴史資料館
三府御門
三余館
四教室跡
大手門跡
大分銀行
歴史と文学の道
（大手門跡）

佐伯城山桜ホール